

市民クラブ市政報告

発行：姫路市議会市民クラブ

姫路市安田四丁目1番地

☎：079-221-2042

編集責任者：常盤 真功



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

皆様にご支援・ご支持頂き活動を進めております、『姫路市議会 市民クラブ』の仲間です。

今回は、『令和8年度予算編成に対する会派要望』、『令和7年度姫路市一般会計補正予算(第5回)』そして11/26(水)～12/19(金)までの24日間で開会された『令和7年第4回姫路市議会定例会での個人質疑』についてご報告致します。

I. 『令和8年度予算編成に対する会派要望』について

私たち市民クラブは、令和8年度の姫路市予算編成に対し、生活者・勤労者に視点をおき、『夢と希望と誇りがもてる姫路市』の実現に向けて、多くの項目を要望しました。11/17(月)に清元市長及び副市長・関係局長から6項目について説明を受け、議論を深めました。

【選定項目】

- ① 衰退していく地域のコミュニティ団体の活性化と抜本的支援の充実
- ② 手柄山平和公園における平和教育施設の充実と観光資源としての活用
- ③ 若者や女性の流出防止につながる企業の誘致
- ④ 歩道や中央分離帯等の雑草への抜本的対策
(除草シートやコンクリート舗装等)
- ⑤ 教員未配置問題の解消
- ⑥ 不登校に対する効果的な支援



II. 『令和7年度姫路市一般会計補正予算(第5回)』について

<物価高の影響が長期化し、その影響が様々な人々に及ぶ中、物価高騰対策を行う>

◎「物価高対応子育て応援手当について」

【対象者】

児童手当支給対象児童(令和7年9月30日時点)を養育する父母等

※対象児童は、令和7年10月1日以降令和8年3月31日までに生まれる新生児も含む約86,000人

【支給額】

児童1人当たり2万円

【スケジュール】

令和8年2月中旬～支給開始

◎「物価高騰対策給付事業について」

【対象者】

基準日時点で姫路市住民基本台帳に住民登録されている方(約52万人)

【支給額】

1人当たり5,000円分のプリペイド型ギフトカードを給付。世帯ごと世帯構成人数分のカードを発送

【スケジュール】

令和8年4月～順次発送。利用期間は令和8年4月～12月

III. 『令和7年第4回姫路市議会定例会での個人質疑』について

阿山正人議員が質問しました

【個人質問：質問日12/5】

本定例会にて、5項目について個人質問しました。
その中で、以下4項目についてご報告申し上げます。

●姫路市公共施設等総合管理計画(案)について

Q: 40年間で公共建築物総面積30%削減、短期目標10年間で7.5%削減目標としているが10年間で2.1%削減に留まっており極めて実効性が低い。どのように計画を推進するつもりなのか。

A: 10年間の短期目標及び施設毎の削減目標を新たに定める。施設の老朽度や利用状況、代替施設の可能性、借地の有無等の評価により、検討が必要な場合は再編実行計画を策定する。さらに部局間の縦割りを超えたプロジェクトチームを設置し組織横断的に最適化に取り組む。

●小中学校適正規模・適正配置基本方針と新計画との整合性について

Q: 少子化の進展で今後も児童数の減少が見込まれるが適正規模・適正配置方針との整合性をどのように実現するのか。

A: 本年3月に今後の基本的な考え方を整理し、行政の責任で取組を進める。具体的には一定数の児童生徒集団を確保し教職員を集約して体制を強化する。施設の安全・安心を確保することも併せて達成していく。

Q: 公共施設の約5割が学校施設であり学校の統廃合は避けて通れない。これまで統廃合した学校は苦渋の決断を強いられた。今後は地域の声をしっかり受け止め、今後のモデルとなるような取組を進めてもらいたい。

A: 地域特性、施設の在り方、老朽化度合い等を踏まえた上で、部局間の連携を強めながら、地域の意見も取り入れて住民に即した形でのモデル地区をつくりていきたい。

●ひめじスーパーアリーナと手柄山スポーツ施設の有効活用について

Q: 新スポーツ施設と手柄山平和公園に立地する既存のスポーツ施設（中央体育館・姫路球場・陸上競技場・県立武道館）を新たな指定管理者（手柄山PFI株式会社）に一体運営させ本市のさらなるスポーツ振興、にぎわいの創出に繋げるべきではないか。

A: 手柄山平和公園内のスポーツ施設を1つの指定管理者が管理することは、複数施設を利用した大規模大会の開催などを通じて公園全体の活性化や魅了向上に繋がる有効な手法だと考える。まずは来年開業の新施設と既存施設で運営体制が異なることによるサービスの低下を防ぐため、総合スポーツ会館のスポーツ教室の移管や受付方法等について協議を進めている。将来的な管理運営手法については、当面の間は新施設や中央体育館の運営状況を見極めながら更に検討していきたい。

●グリーン製品の需要創出に向けて

Q: 公共部門で脱炭素製品やサービスを率先して調達することで自治体への波及効果が期待されるが、コストや販路確立等の課題がある。しかし脱炭素社会の実現には産業部門の脱炭素化が極めて重要であり積極的に支援するべきではないか。

A: 『姫路市グリーン購入方針』を策定し環境負荷がない製品等を優先し購入する取組を推進している。本年1月には方針を改定し供給企業に対し環境負荷の少ない製品の開発を促すことで経済活動全体を環境にやさしいものに変えていく可能性があることから引き続きグリーン購入を推進していきたい。

藤山敏明議員が質問しました

【個人質問：質問日 12/8】

本定例会にて、4項目について個人質問しました。
その中で、以下3項目についてご報告申し上げます。

『NHK 大河ドラマ』を機に林田の活性化を 「バンカル」の廃刊は残念でならない！

●放課後児童クラブの民営化について

Q: 民営化を決断する背景と具体的なメリットについて

A: 民営化導入の背景は、サービスの充実を求める利用者の声や安定的なクラブ運営を実現するために必要な支援員の不足、より円滑な労務管理が必要となっている。このような背景を踏まえ、民間業者の専門性や柔軟性を生かした公設民営化を導入することにより待機児童の解消を図るとともに利用者のサービス向上を一層強化し、安定的かつ質の高い運営体制を構築することをその狙いとしている。

民営化のメリットとして多彩なプログラムの提供や出欠席連絡のための連絡ツールの導入、支援員への研修の充実などによるサービスの質の向上に加え、多様な求人活動や特別な支援が必要な児童への専門的な支援体制の整備など、運営体制の強化が期待できることから、結果として待機児童の解消にもつながると考えている。

●27年NHK 大河ドラマ「逆族の幕臣」について

Q: 主人公の「小栗上野介」は江戸幕府の天才官僚といわれ、勝海舟とともに明治の父と呼ばれる人物だ。その妻「道子」が林田藩の出身で、これが縁で「林田と小栗家の歴史をつなぐ会」が結成されている。この大河ドラマを機に林田町を内外に情報発信し、姫路市の活性化を図るべきではないか。

A: このドラマを通じて主人公の妻である道子は林田地域と深い関わりがあり、その功績と人物像が全国的に注目されることで、林田地域が有する独自の歴史的価値が改めて脚光を浴びるのではないかと期待している。このドラマを契機として、林田地域の藩校「敬業館」や大庄屋旧三木家住宅、林田陣屋跡などの歴史的資源の活用や観光振興の取組を進めることは、地域の歴史と文化の再発見につながる非常に意義深いものとして、姫路市としても支援すべきものと考えている。

●地域雑誌「バンカル」の廃刊について

Q: バンカルの廃刊は残念でならない。経済界の支援や補助金の復活はできないか。

A: 創刊以来34年が経ち、地域の情報を俯瞰し続けるなど、発刊当初の目的はおおむね果たしたと思われる。発行部数の大半な減少により補助金に対する依存度も高くなってしまっており、これ以上の継続は困難と判断した。

市長の感想も「文化不毛の地と言われた本市において、バンカルは地域の魅力発信に一定の役割を果たした」と言われている。

